

学術会議共同声明： 鳥インフルエンザと感染症

現在、世界は鳥インフルエンザの拡大によって引き起こされた問題に直面している。このことは、新たな人インフルエンザの世界的流行に進展する恐れがある。世界的流行病は希なものではあるが、世界中の公衆衛生に対して破壊的な影響をもたらす得る。重症急性呼吸器症候群（SARS）は、推計で300億米ドルに及ぶ深刻な経済的損失をもたらした。インフルエンザの世界的流行病がひとたび発生すれば、その社会的、経済的影響は、右に比べ著しく大きなものとなる。

鳥インフルエンザは、我々が世界的に直面している多くの感染症の一つに過ぎない。鳥インフルエンザは、現在、動物の保健衛生と家禽類の取引に関わる重大な懸念となっており、人々の間で世界的流行病を引き起こす可能性を有している。しかしながら、現在のところ、人々にとって地球規模で最も重大な疾病の懸念となっているわけではない。現在とられている措置のいくつかは、鳥インフルエンザのみに関連するものであるが、他のいくつか（例えば、国家的、国際的な疾病監視ネットワークの構築）は、その他の感染症にも同様に有用なものとなるであろう。地球規模の共同社会にとって、鳥インフルエンザ問題に取り組みつつ、これらの他の疾病を忘れないようにすることが極めて重要である。他方、鳥インフルエンザは、世界的に新たに出現しつつある、又は再発しつつある疾病の脅威に対する研究と対応の能力を向上させるための触媒となり得るであろう。

最近の経験によれば、出現しつつある人獣共通感染症を制御するための諸方策は、それら感染症の拡大を抑止することと経済的損失を低減させることの双方を目的として、人間の健康に対する長期的リスクを防ぐことができるように国際的に綿密に調整されなければならない。

提言

世界の諸国は、鳥インフルエンザを巡る現在の諸課題及び重大で新たに出現しつつあるその他の感染症に立ち向かうための長期の地球規模の戦略に取り組むことに協力すべきである。このためには、各国政府、科学者、公衆保健衛生専門家、動物保健衛生専門家、経済人、産業界代表及び一般公衆を含む利害関係者全般による地球規模の協調行動が必要とされる。

したがって、我々は、世界の指導者（特に、2006年7月にサンクトペテルブルクにおけるG8サミットに出席する指導者）が以下の提言を実行するよう要請する。我々の側も、これらの目標を達成するために各国政府とその他の適切な提携者とともに働くことを確約する。

- 鳥インフルエンザを監視し、これと戦う既存の国際的イニシアティブ、特に、世界保健機関（WHO）、国際獣疫事務局（OIE）、国連食糧農業機関（FAO）及び世界銀行によるものを支援すること。
特にWHOは、起こり得る世界的流行病に対する適時の対応と、封じ込めが持つバイオセキュリティの諸側面を含めて、その封じ込めのための規約の案を作成しており、また、他の多くの勧告をしている。各国は、自国内で鳥インフルエンザやその他の世界的流行病の脅威の起こり得る到来を予期した国家戦略の設計と実施に際して、これらの勧告に対する特別の注意を払うべきである。
- 開発途上国が鳥インフルエンザやその他の感染症に取り組むための国内戦略を実施する際、それぞれのインフラストラクチャー（特に、監視及び検出に関わるもの）の能力を構築する際、及び最貧層に属する国民に感染症の発生がもたらす必然的な社会的、経済的影響を減らすことを助ける際に、これら諸国に対する支援を行うこと。

すべての国が、現在、鳥インフルエンザやその他の感染症と戦うための施策を実施するのに十分な能力をもっているわけではない。そのようなインフラストラクチャーは、経済成長と持続可能な開発とを維持しながらこの脅威に立ち向かう上で極めて重要である。2006年1月に北京で開催された国際ドナー会議では、鳥インフルエンザに対抗しようとする開発途上国における協調行動を支援することに対する各国政府と国際機関の用意があることが確認された。これらの行動は実行されなければならない。

- 世界的な監視は、出現しつつある人獣共通感染症を統制するための基本的手段である。多数の構成要素をもち、調整がなされていない現在のシステムは、地理的範囲と人的、科学的能力の面において充分でない。改善及び調整のための諸政策には、現在と将来のシステムにおける利害関係者として、複数のレベルの国家的、国際的な政府諸機関のほか、様々な科学関係機関、公衆保健衛生関係機関及び非政府機関が関与することになるであろう。

したがって、G8政府は、世界的監視能力の更なる開発のための勧告を行うため、独立した、証拠に基づく調査研究（例えば、「インターアカデミー・カウンシル」がG8諸国及び開発途上地域の専門家の参画を得て実施するもの）を求めるべきである。そのような調査研究は、適切な役割、調整と報告のメカニズム、人的、科学的、技術的能力並びに世界の疾病監視能力の向上に関連する費用を盛り込んだものとなるであろう。

- 新たなワクチンや薬品及び新たなより迅速なワクチン生産方法の開発のために全世界の科学、医学コミュニティが動員されるべきである（現在の季節的インフルエンザ・ワクチン生産の世界的能力は、年間で約3億回分投与量であると推定されている）。また、より多くの研究が、市場で入手可能な現在のワクチンと薬品を使用するための最も効果的な方法のより良い理解を築き上げるために必要である。

鳥インフルエンザとその他のいくつかの重要な感染症の人獣共通感染症としての起源に鑑み、各国政府と科学コミュニティは、世界に存在する多様な環境とコミュニティを考慮に入れた感染症の検出、診断、予防及び治療の新しい方法を作り上げるため、疾病の発生に首尾よく取り組む様々な能力を有する、人の健康と動物の専門家の間の国際協力を促進すべきである。

- 各国政府は、臨床及び疫学的データの収集において一層協力するよう奨励されるべきである。SARSの発生は、感染者から得られる臨床データの共有における問題点を明らかにした。各国は、特に世界的流行病の初期段階において、臨床データがアクセスされ、共有されるのを可能にする戦略を実施して、疾病、最も大きいリスクにさらされている人々、最善の治療及び臨床的介護に関する情報が識別、流布され得るようにすべきである。

さらに、現在開発されつつある各国内戦略には、起こり得る発生の前とその期間中の介入の評価に関する規約を盛り込み、まだ影響を受けていない他の諸国とこの知識が共有され得るようにすべきである。協同研究ネットワークとインフラストラクチャーが今、確立されるべきである。

- インフルエンザを引き起こす問題の多くは、他の多くの感染症にも関連している。特に低開発諸国に関する脈絡において、結核、HIV/AIDS、マラリア、エボラ熱などの他の感染症が広域にわたる病気と経済的損害を引き起こすことに留意すべきである。これらの病気に対する戦いは、既に資金の供給不足となっている。国際社会は、鳥インフルエンザに焦点を合わせることが、一連の感染症の脅威に世界的に取り組む能力を備えた広域かつ持続可能なインフラストラクチャーの整備と競合するのではなく、むしろその動機付けとなることを確保しなければならない。